

3. 新聞記事と写真で見る附属天文台の 80 年

この章では、過去の新聞や雑誌の記事、当天文台に所蔵されている古い写真、さらに当天文台にゆかりの深い方々からご提供いただいた写真を見ながら、附属天文台の 80 年を振り返ります。なお、本章で使用われている新聞や雑誌の記事は各新聞社（通信社の配信記事の場合はその配信元の通信社）または出版社から許諾を得て転載しています。これらの記事が無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案する等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。



花山天文台の創立者 新城新蔵博士



花山天文台創立当時の理学部構内の天文台ドーム

宇宙物理学教室の一部の移轉地として北花山山に擇定し
 其敷地として約八千坪の廣さを必要とする理由

電車道接のためには、妨害を避くるために、宇宙物理学教室の一部を、
 京都大天文堂の移轉と考慮すること、かつ同時に第一候補地として
 擇定したりは、大宮に接せし吉田山上の吉田神社境内地にて、ふるは
 大宮の各教室にも近き上に、周囲よりの障害も少ないので、約千坪程の地
 を吉田神社より借用すること、すなわち好都合なりと思ひ、早くより同社
 官司に對し、右敷地借用方式依頼し、協議交渉を継続し来たつた
 の、いづつたが、近來に在り、同神社境内に接隣する同園の地域は、非常
 多量な樹木を以て、閑寂され、此部もすれば、該地一帯の俗化も先此難き取
 手早すにまつたので、同神社附世の森敷と風致とを維持するに、早うに

神社境内地蔵の存在に關しは、特別の考慮を以て、必要と見ると
 主り、天文堂移轉の敷地として、更に吉田山以外に候補地と物色す
 ること、適當ありと思ひ、現在の大宮所在池と距ること甚だしく
 遠かるるの範圍内に於て、種々備荒の地、北花山山と以て、最も適宜
 なる候補地として、擇定するに至つたものがある。

○北花山山は

(1) 海拔二二〇米で、其附近に最も高き吉田山も海拔二四〇米に
 過ぎない、後つて周囲の森林と遠らることなく、加ふるに空氣
 清浄、天體の観望に適し、且つ

(2) 大宮方面よりは、清水山の隈にあつたので、竹田東山の隈
 是の地に、同地がよい。

京都帝國大學

京都帝國大學

○北花山山は

(1) 海拔二二〇米で、其附近に最も高き吉田山も海拔二四〇米に
 過ぎない、後つて周囲の森林と遠らることなく、加ふるに空氣
 清浄、天體の観望に適し、且つ

(2) 大宮方面よりは、清水山の隈にあつたので、竹田東山の隈
 是の地に、同地がよい。

遷移せらる。

以上

教授 新城新藏

京都帝國大學

京都帝國大學

(1) 遷移地は、大宮に接せし吉田山上の吉田神社境内地にて、ふるは
 大宮の各教室にも近き上に、周囲よりの障害も少ないので、約千坪程の地
 を吉田神社より借用すること、すなわち好都合なりと思ひ、早くより同社
 官司に對し、右敷地借用方式依頼し、協議交渉を継続し来たつた
 の、いづつたが、近來に在り、同神社境内に接隣する同園の地域は、非常
 多量な樹木を以て、閑寂され、此部もすれば、該地一帯の俗化も先此難き取
 手早すにまつたので、同神社附世の森敷と風致とを維持するに、早うに

(2) 天文堂内部の建切上、若干の距離を侵れ、天體視測上
 上の妨害が、ある様にするため

例へば、天文堂は、麻布館裏の約三千坪の敷地であつたが、三徳
 に移り、及んで、約十坪の池、水、必要とするに至つたので、

新城新藏博士が作成した花山選定理由書

「宇宙物理学教室の一部の移轉地を北花山山に撰定し其敷地として約八千坪の廣さを必要とする理由」
(歴史館に所蔵)



日本一の望遠鏡組立終る 京大が日本一と誇る口径十二インチの屈折望遠鏡は去月中旬から組立てを急いでゐるが、二十日漸く完成即日観測をはじめた(写真望遠鏡の前に立つ眼鏡の人は山本一清博士)

クック 30cm 屈折望遠鏡の完成を伝える古い新聞記事 (1927年7月)

工兵隊で 奉仕的開鑿
花山天文台への自動車道路

目下京都帝大が洛東花山の山嶺に建設中の天文台へ通ずる道路の建設に關し大規模の工事の交差をうけて伏見工兵大隊は岡田中佐の手任となり此程測量を終つた右道路は職上に發して幅員二間餘で延べ一町兵力平均二百名廿日の労費四千人を要するものであるが此程の工事は工兵隊では練習の日を選んで全く奉仕的にやるのであるから經費も普通の三分の一の三、四に減つて工兵隊に於ては師團長から命令あり第同隊では起工する筈であるが時期は多分九月廿八日に着手する事ならうと

道路工事を 工兵隊でやる

京大では洛東花山山頂に天文台を新築中であるが、これに至る道路工事の一切を伏見工兵第十六大隊へ依頼する事となつたが、工兵隊では九月二十八日から十月十六日まで石井隊長以上三百五十名の将卒が活動する事になつた

工兵隊による天文台への自動車道の建設を伝える古い新聞記事 2件 (1927年8月)

1928年

「東山天文台」

京大理学部教授理学博士 新城新蔵

(一)

私は今度大学が京都東山に天文台を建設するに至ったことに就いて一言申述べたいと思う。これは表面的に言えば『今度市電の所謂大学線が出来ることになったので、現在の大学天文台は電車近接のために蒙るべき電氣的及び器械的障害を避けるために移転する必要を感じ、地を山科町花山の頂に相し、昭和三年秋を期してそこに移転することとなった』という至極簡単明瞭な話で何のへんてつもないが、併し其實質的内容は大いに注釈を要することである。何故に新天文台の敷地として東山の一部を選んだか、天文台は何をするために設けるのか、東山と天文台との因縁関係は如何。私はこれ等の諸点に就いて一応解説を加えたいと思う。

形式的に見れば、外来の障害を避けんがために逃げ出すという極めて消極的の施設に過ぎぬのであるが、併し實質的にはこの機会を利用して大いに発展せんとする積極的の計画であることは言うまでもない。多年雌伏その時節を待っておったものが今や大いに雄飛せんとするので、実に私共はこれをもって昭和即位の大典を永遠に記念することに資たいと思っている。

布団着て寝たる姿や東山、その東山の一角に天文台を設けるのは甚だしく不似合であると考え人もあるかも知れないが、私はこの点に関して特に京都市民の考察を煩わしたい。勿論私といえども『何事ぞ花見る人の長刀』——花の山に長刀を振廻すほどの無風流な真似をするつもりはない。天文台敷地なる北花山は標高二百二十メートルで標高二百三十メートルなる清水山の東に当り、全くその陰に隠れて京都市内からは見えないので、所謂風致問題に触れる虞れはなく、しかも天文台の位置として望ましい多くの条件を具備しているので、この地点を選んだわけなのであるが、しかし私はなお一步を進めて、所謂『京の東山』に天文台を建てるというその精神に就いて、深く京都市民の諒解を得、その支持を期したいと思う。

思うに東山を布団着て寝た姿に見たてた人は、東三本木辺りの寓居に寝転んで見たものであろうが、無論京都人はいつも寝てばかりはおらぬ。ねころんでねた姿に見たてる代りに、新時代に活躍すべき京都人は、寧ろたって見てたつ^{たつ}の姿に見たてるべきではなかろうか。

東山を龍^{たつ}に見たてることは決して私の空想ではない。実に桓武天皇の平安遷都の大精神に基いている。謹んで案じるに、遷都の詔に山河襟帯自然作城とあるのは、京都の地をもって、東は青龍、北は玄武、西は白虎、南は朱雀、四神相応の地と認められたので、これによれば東山は青龍、即ち活気ある青年の龍に見立てられている。我々は決して東山をして長夜の眠を貪らせてはならぬ。時を得て奮い立ち、青龍の如くに活躍させなければならぬ。そもそも龍とは何物か。龍と天文とは如何なる因縁ありや。

(二)

龍とは何か、これは実に興味ある問題である。もとより実在の動物でないことは言うまでもないが、しからば何に基き何に象って仮想したものであろうか。私の研究した所によれば、龍は本来天上のもので天文学との関係は頗る深い。夏の夕方南方に見える一連の星象で、誰が見ても尾の曲った動物の形に見えるものがある。これを名づけて龍と称えたもので、その出自は極めて明白であるにも拘らず、長い年代の間に何時しか伝統を失したのは遺憾に堪えない。遂に或は大蛇^{おろち}の如きものから或は鱈の如きものから連想したものでないかとまで疑われるに至っては言語道断、我が神聖な龍を冒瀆するも

また甚だしと言わねばならぬ。

現在まで継承した文明は今より四五千年前に始まった農業文明であるが、農業文明の初期にあって最も痛切に必要なを感じたのは、一年春夏秋冬の変化を的確に知らせるためのよい暦を作ることであり、これがためには東西共に非常に苦心している。支那の上代には夕方日没直後に見える天象を見てそれによって時節を判断したもので、この目的のために主として観測した目印の星を総称して辰と称えており、辰としては或は^{だい}火、或は^{さん}參、或は北斗などを用いている。

大火というのは夏の夕方南方に見える赤色の一等星で、この星から丁度日没直後に南中するのを以って夏の真中五月の目印としていたものである。辰の中でも特にこの大火は^{いん}殷の代を通じて長い間主要な辰として用いられていたもので、終には辰の名を独占し、辰といえは常に五月の星なる大火を指すようになり、やがて後に一年十二ヶ月の名称と記号とを定める折に辰を以って第五番の記号とするに至ったものである。

辰は、これによって一年四季の時節を定めるものなので、農業文明の初期においては絶対必要のものとして甚だしく重んぜられ、又尊崇されたものである。現に農という文字は辰という字より成っており、又大火付近の星の連絡は尾の曲った動物の形を連想させるので、この星像を神聖な龍と名づけて尊崇するに至ったものである。

大火はこの龍の胸に当るので又これを心とも称える。後漢時代に出来た^{せつもん}設文に、龍は春分にして天に昇り秋分にして淵に潜むもの也とあるのは、丁度春分頃より見え始め秋分頃には太陽に近づいて見えなくなる天の龍の出没を伝えているものである。又辰は時節を建てるものなので、龍の和名をたつというのもこれがためである。

黄道二十八宿の一周を四分し、これに方位や色などを配当したのであるがその第一部は了度前述の天の龍の部分に当るので、東方蒼龍（又は青龍）と称えて四神の随一に置いたものである、かくして京都の東山は奠都の際に青龍に見立てられ、従ってそれによって古代の天文学との因縁が結ばれたわけであるが、龍と天文学との間には更にもう一段の深い因縁がある。

(三)

今から四五千年の昔、農業文明の初期に当って一年春夏秋冬の変化を明らかにし、良い農業暦を作るために開け始めた天文学は、以来文明の発展に伴いその任務もまた幾變遷したが、常に文明の先頭に立ってその進運に貢献している。

現代の文明は動力文明であり、動力文明の将来に懸って太陽熱の利用如何にありといはれているのであるが、現代の天文学は実に太陽の研究を以ってその主要任務としている。太陽の本体は如何なるものか、太陽の光熱は如何にして発生し如何様に変化するものか、これ実に動力文明の死命を制すべき大問題であり、現在の天文学者がその全力を挙げて解決に努めている懸命の問題である。

空にある幾億の恒星は、その実質に於いてはことごとく皆我が太陽と同種類のものであることが明らかになったので、我が太陽の本質如何を明かにするためには、これ等幾億の恒星を比較研究するのが最も便利な方法であることは言うまでもない。しかも今日まで研究された所によれば、我が太陽を始め幾億の恒星は悉く皆、その初めは密度非常に希薄にして厖大なる容積を占めたものより始まり、内部相互の引力のために次第に密集し、密集したために多量の光熱を発生し、かくして厖大にして光輝強き巨星時期より、やがて収縮して次第に光輝弱き矮星時期に入り遂に見えざるに至るものと思われるので、巨星の再極端にある星、即ちいわば生れたばかりの厖大な巨星の研究こそは、実に全問題解

決の肝心であるといわなければならぬ。

大火又は龍の心として重要な辰の役目を務めた赤色の星は、今日の天文学より見れば、偶然にもまた、巨星時期の最極端にあるものであり、その大きさは我が太陽に比し、直径において約三百倍、体積において約三千万倍、その平均密度はおよそ我が太陽の幾百万分の一という程度のものであろうといわれている。我々はこの星の本質を明かにすることによって直ちに我が太陽の問題を解決し、かくして動力文明の将来に光明あらしめることが出来るであろうと思われる。この星こそは実に現代天文学の眼目であり、真に龍の顎の宝珠とも誓えるべきものといわねばならぬ。

これを要するに形容的の言葉を以てすれば、古往今来、天文学は常に龍の研究を以て終始している。古代の天文学は龍の出没を観測していたものであり、現代の天文学は龍の顎の宝珠を探っている。

易の乾の卦に日く、『九五は飛龍天に在り、大人を見るによし』これに基いて天子を龍に譬え、天子の位を九五の位と称えているのであるが、ことしたつたつの年の秋に天子即位の大典を京都に行われるに際し、京都の東方蒼龍の山の背に天文台を建設し、龍の顎の珠を探って君が代の万歳を祝おうとするのは、並々ならぬ因縁であるといわなければならぬ。

君が代をおもふ心の一すじに たつたつのあきとの珠も見ましや

東山天文台の建設に関して、中井、上田、河合、曾野、渡邊、杉本の六氏より敷地を寄付せられたこと、伏見の工兵第十六大隊がその演習作業として天文台道路を開鑿せられたことは、共に私共の深く感激に堪えざるところ、この機会において更に感謝の意を表したい。

(編集者注) この原稿は昭和三年に新城新蔵博士が京都日日新聞に寄稿したものです。この原稿を本誌にご提供いただいた京都産業大学・大学史編纂室の荒木雄豪氏に感謝します。



1928年、比叡山山頂にて。左端が山本一清博士、中央が木村栄博士、後列の男性が上田穰博士。
(山本進氏提供)

発見された新遊星

太陽までの四十五倍の距離

八十年來の大成功

【ワグスタア（アリゾナ州）聯合台
十三日發】 常地ロウエル天文台
において新遊星を発見した事は既
報の如くであるが、天文台のダ
イ・エム・スリッファード博士の發
見によれば、天文台の星表に
よつて、この新遊星は、太陽から第
九番目の

遊星

が發見されたもので
この第九遊星は二十五年前に米國
有名天文學者で、常地ロウエル
天文台の所長である故、パーシ
ヴァル・ローウエル博士が一九一六
年に死すにより、發見的にその存
在を發見されたものであるが、發見
に遅れたのは、最初に今年一月二

實は

今日までに第九遊星
を數十回も發見したのであるが、
系統的となつた今日までその發
見を確して居たのである
實際的發見の結果、この遊星の位置
は太陽と地球間の距離の約四
十五倍地球の遠方であり、し
かしてその大きさは木星よりも
大きいか如何かはなほ未定だが
少くも地球よりは小さくない事
は確かである

最大發見

【京都電話】 右につぎ京都東山の
星花山天文台に山本博士を訪へ
ばいはく
これは二十世紀の天文學界に
おける最大な發見である、從來
本遊星は舊王座までとされたの
が、さらに新しい星まで發見さ
れ、すなはち本遊星がそれだけ
大きくなつたのだから非常な大
回響である、舊王座の外に遊星
があることは他に、お上り引力
が、他のことより五十年程前から
天文學界に懸念されてゐたこと
だつたが、今日までそれを發見す
ることが出来なかつた、近頃の
進歩した望遠鏡によれば當然觀
測し得る範圍にその星はあるに
ずななだが發見することが出来
なかつたのである」

1930年3月15日 朝日新聞

京都天文臺の大獲物 小遊星を發見す

撮つた寫眞板中から偶然に

【京都電話】 八日夜半、京都東山天
文臺の中村製氏は「ダリヤ」とい
ふ小遊星探査の目的で撮つた寫眞
板中に、驚くも可成り明るい小遊
星を發見した、その位置は、舊遊
星の舊部、近年の發見のものとして
二等級、近年發見のものとしては
珍しく明るいものである、其後中村
氏は折柄の薄雨の天気と懸ひなが
ら、タツタ望遠鏡で精密に観測照
像を行ひ、大いであつた、中村博士
と星田博士が右の結果に基い

て軌道の計算を行つた、あつたが
廿五日、即ち完了した之に依ると
太陽から平均距離一、八〇〇
万里、公轉週期五年一七九日、
傾斜角〇、一〇五三、軌道面の
傾斜角三五、一六六、地球からの距
離現在約八、〇〇〇万里
これは十センチ以上の望遠鏡と優
秀な寫眞板が無ければ見えないと
神田技師語る
右につぎ遊下三博士、京都天文台
の神田氏は語る

今日京都天文臺の中村氏が發見
された小遊星の特徵は少し懸光
する事で、光度から計算すると星
の距離は約五千星位でせうか、
更に角天文界近來の大獲物です
この發見は、直ちに丁抹のコーン
ヘーゲンにある中央天文臺に報
告されましたが、更に同天文臺
から世界各地の天文臺に報告さ
れる事となつてゐます

直徑は五千里

神田技師語る

右につぎ遊下三博士、京都天文台の神田氏は語る

1931年7月7日 読売新聞

科 學

壮大な宇宙建築 黄道光の神祕

ヒラミッドの構想もこれから

天文学者 山本一清



ヒラミッドの構想もこれから
天文学者 山本一清

ヒラミッドの構想もこれから
天文学者 山本一清



*ドラゴンライの黄道光は日食中十六分後(上)にワイドコープ
(下)黄道光の観測地(ワイドコープ)で観測する

天文学者 山本一清

ヒラミッドの構想もこれから

天文学者 山本一清

ヒラミッドの構想もこれから

1935年10月20日 朝日新聞



初代台長 山本一清博士 (本館図書室に掲示)

本年の皆既日食

上田 穰

学利

本年は日食が二回見られるはずで、一は三月二十八日の金環食と、もう一つは十月二十九日の皆既日食である。

この皆既日食の見られる地域は、カスピ海の西から延びてギン海下りまで延び、中支を横きって高麗の花を横め、東のフィリピン、シヤ群島で達するものである。この皆既地帯は約四千キロメートル位の幅をもつてあるが部分食の見える範囲はこの皆既地帯の南側に廣がつてをり、その幅は皆既地帯の約五十倍、四、五百から七十倍に達するものである。

その際におおむね九時、十時は丁度一杯に入るくらいな幅をもつて東の方へ走つて行くものである。

この皆既地帯は東洋にサイオンとクアム島の中間にあるロタ島を合んで、終末近くはマイシヤル群島に達しリキニツツ、アイルランド、メジチなどの小島までの地帯に回るので、本邦中かなり廣範囲に達する大日食であるといつてよろしい。この日食に於いて最も皆既の狭く闊くであるのは、赤道の南緯

三十二度二秒に達する。

これは極端なこの日食観測の計算を取つたのは五年前の昭和十一年のことであるが、昨年未だ知られなアメリカの天文家によって日食観測と比較してみると、僅少の差違を示してゐるのである。

九江、西貢附近においてはアメリカ天文家に掲げる皆既の中心線が少しく北にずつてゐる。その隔りは約三キロメートル、石垣島附近になるとほとんど一致してゐるのである。これらの差違は皆既の幅に於いては、どうしてそのやうな差違があるのかといふことを説明する必要があると思ふ。それは皆既日食現象の原理なるのである。そもそもこの日食現象といふものは月が太陽を蔽ひ蔽すがために起るといふことは今日では万人の承知してゐる事柄であつて、それがためには太陽なり月なりの運行の様子を善くたしてゐないといふ

正しい観測はできないといふことも、皆既の原理を正しく理解するがためである。このように、かのクリニツク天文台である。これは一六七四年に創立せられたものであるが、その創立の第一の目的は月の軌道によつて天空における月の運行を正しく理解するがためであつたのである。これはなほ日食の必要ならなくてはなほ月の運行を見て航海者が時計代用として用するがためであつたのである。由來この月の位置を豫定するた

めには多くの天文学者が苦勞したわけであつてそのうちハンセン、ラドワなどいふ人がいはゆる本誌

誤といふものを作取したがよく月の位置を算出することができず、現在ではフランクソンの本誌修正表が最も正しいものとして一般に採用せられてゐるのである。これとても使用の初つはじめから本誌の月の位置とは角度で八秒ばかりの差があつたやうなわけで、しかしこの差違は理論では説明がつかないのである。もつとも八秒といふのは月の速さで以て十五キロメートルの差に當るのであるから小さいには小さい誤差といはなければならぬ。著者は京大天文台台長・藤田

1943 年



初代台長山本一清博士（前列中央）と第二代台長上田穰博士（同左）。前列右端は、のちに気象庁長官となる柴田淑次氏（山本進氏提供）



花山天文台に賓客（前列の3人）を迎えた時の写真（撮影日不詳）。前から2列目左から2人目が山本一清台長。3列目の左から3人目が柴田淑次氏。（山本進氏提供）

アンデス山中に天文台

京大技術陣も應援

世界で六番目に コロナ・グラフを設備

東大とペルーのサンマルコス大学とが共同で、ペルーのアンデス山中に天文台を建設しようという話が同大学の間に進められている。(本報記者)



ペルーの首都リマにあるサンマルコス大学の天文学教授フアエル・タビラ氏はこのほど、京大宇宙物理学教室上田教授に手紙をよ

あるが、観測の椅子からコロナ・グラフ(コロナ観測機)を日本でつくって寄贈してあげれば、その観測に必要な付随設備の建設や観測員の訓練費、船料などはペルー側で支拂しようという朗報を伝えてきた。

京大でもかねてコロナ・グラフを備えた天文観測所の設置を希望し、適当な土地を物色中だった。またタビラ教授は昭和十四年と約一年前上田教授のもとで留学生として天文学を学んだ師弟の間柄でもあるので、上田教授自ら帰航して天文台の建設にあたり、観測機建設の技術的援助を身で実現させた。と大いに興奮しており、このため、口徑十六センチのレンズを某光学会社に発注した。この計画にはペルーの日本人会も、出来るだけ援助しようとする意向を持っているという。

なお日本ではコロナ・グラフのある観測所は東京天文台の乗鞍観測所だけで、世界でも米國に二カ所あるほかフランスとスイスに各一カ所しかなく、ペルーに出来れば世界で六番目のものとなる。

火の時代



来年七月二日には六千四百万キロまで近づく火星観測のためアメリカのすゝめ、国際火星観測会に加入することとなった。『キミキミ』宇宙旅行はいまじや夢じゃなくなったよ。ロケットが急速な進歩をしたものだから。月世界旅行も実現の日はふるい世界の天文学者を了ごで動かし事ももある。

英雄に誇られ、現在宇宙旅行協会の重要メンバーとして活躍するほか大阪府気科学館佐伯恒夫、東京科学博物館天文課村山定雄の両技師を初めわが国レンズ研(宇宙界の第一人者元野村木)

白宅を天文台として東洋一といわれる大反射望遠鏡をすえつけられた。一度は村議会を解散したが二十四年十月ついに辞職、政治からは足を洗ってまた山にこもった。

近い』と会う人ごとこう切出してくる。

京大理学部卒業後教壇に立ち宇宙物理学を担当して十数年、在職中に同大学付属花山天文台(京都東山)を設立、その後名誉教授となったが太平洋戦争も敗色の濃くなった十九年退職、郷里滋賀県栗太郡上田村に帰り

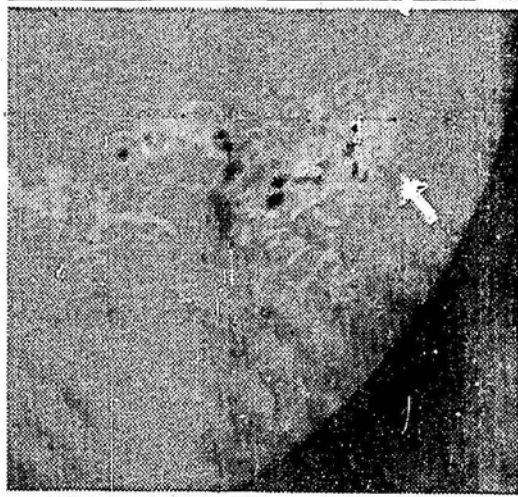
者はその人だともみている。ところが彼には妙に政治好みのクセがあり二十二年春初の公選知事候補に打って出て見事敗退、翌二十三年八月にはついに上田村村長となってむすかにこの望みを達した。ところが村議一同が一回りも二回りも大きな期待を寄せているようだった。六十二年

山本一清

第一人者元野村木
辺成慶氏など約三十名を会員とする

すのたとえの通り村東部天文学会の会長でもある。民たちは典型的な女学

いろいろ何らつうはま私 . . . 川ぬ立で相出際路ら子す!



太陽表面の大爆発

生駒天文台、みごと撮影

【大阪】九日前、京大生駒天文台で、太陽表面の大爆発をみごと撮影することに成功。十一、十二両日にかけて、この太陽表面の大爆発を、生駒天文台の望遠鏡で撮影した。九日前、太陽表面の中心部から、直径約二十キロメートルの範囲に、直径約十キロメートルの黒い穴が現れた。この黒い穴は、太陽表面の温度が急激に低下したためである。この黒い穴は、太陽表面の温度が急激に低下したためである。この黒い穴は、太陽表面の温度が急激に低下したためである。

そのほか、生駒天文台で撮影された太陽表面の大爆発の映像は、東京大学で撮影された映像と比べて、より鮮明であることがわかった。これは、生駒天文台の望遠鏡が、より高性能であるためである。

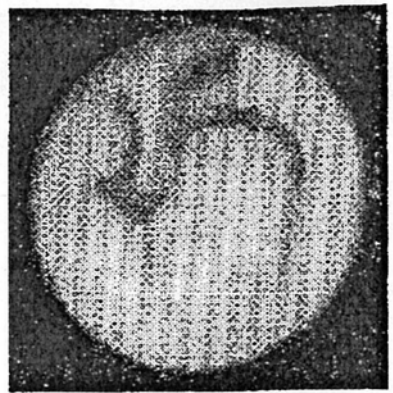
1956年9月10日 朝日新聞

昭和32年4月22日

(月曜日)

三頁

六頁



次郎に黙ってゆく火星の雲—京都電送—

火星の雲観測に 世界で初の成功

大接近の26日、学会に発表

【京都電】京大理学部宇宙物理学教授主任教授生駒大蔵(せいごま だいざい)は、二十一日、三井物産大花山天文台長(はなやま ぶんざい)と共同で、火星の大接近を観測した。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。

生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。

火星の雲は、これまで観測されていなかった。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。生駒教授は、この観測の結果を、二十一日の朝日新聞に掲載した。

1957年4月22日 読売新聞

人工衛星キャッチへ援軍

篤志家が寄付申出

花山天文台 シュミット・カメラ工事



組立急ぐシュミット・カメラ（花山天文台）

京大花山天文台の大型シュミット・カメラ（口径四〇センチ×六〇センチ）は、九月末、カメラが完成したまま遠征にとりつける費用に、ソ連が打上げた人工

衛星をキャッチできそうもないと、関係者を残念がらせていたが、これをきいた寿屋の佐治敏三専務が九日午後「わたしの方で出しましょう」と工事費の提供を申出た。

よつこんだ同天文台では同日から突貫工事に入り、衛星が見られそう本十四日の明け方にはわが国初の大型シュミット・カメラで、この「世紀の光」をとらえようとはりきっている。

アメリカの人工衛星観測計画によると、日本の東京天文台は、世界十二ヶ所にウルトラ・シュミット・カメラを配置、写真観測に当ることになっているが、十二月にならねば日本にとどかないため、ソ連の人工衛星第一号およびそれに続く初期の衛星の姿はとらえられそうもない。

花山天文台では昨年七月から寿屋の応援で独自に大型シュミット・カメラの製作にかかり、レ

ンズ磨きの權威である滋賀県野洲郡中主町、木辺成慶氏に最後の仕上げを依頼、六十センチの反射鏡は既に仕上り、現在磨いている四十センチの補正レンズ（コクテイング・プレート）もこの十三日には完成するので、これを三十センチ反射望遠鏡用赤道儀にすえつけばいつでも写真観測ができる状態になりながら既に研究費を使い果して行詰っていた。その矢先ソ連の人工衛星が予告なしで打上げられたのだ。

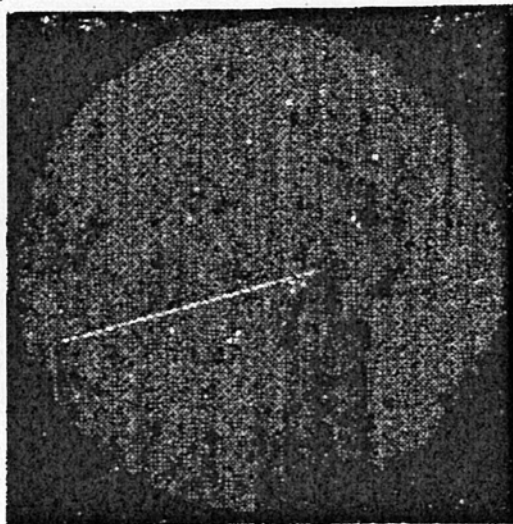
同台責任者の宮本正太郎博士の軌道計算によると人工衛星をはじめ日本の上空で観測できるこの十三、四日ごろから約一週間の朝晩を逃がせば、軌道の歳差運動で当分は見えなくなるそう、寿屋の援助を得た関係者は一時間でも早くとりつきたいと急いでいる。

1957のアルファ

こんどの人工衛星に命名

国際天文台観測発表機関で

アメリカのハーバード天文台とある国際天文台高速天体観測発表機関(ハーバード・マサチューセッツ)から十六日朝、東京天文台へこんどの人工衛星について記す報告が届いた。
それによるとこの衛星を高速天体の一つとして公称し「5515のアルファ」と名づけた。もう明るいものをアルファ、暗いものをアルファ2と呼ぶ。アルファ1はロケットで、アルファ2はラジオを出している本体と考へる。
まだこの衛星の正式名称はよくわかっておられませんが三日後から四日あたりは「アルファ」の名称で呼ばれる。この衛星は世界の五カ所、東京天文台の観測に成功した。

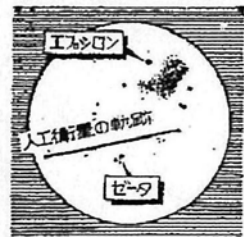


初の撮影に成功

シユミット・カメラで

【京都発】十六日午前四時三十九分京都大学宮本正太郎教授の指揮する京大花山天文台シユミット・カメラ観測班は人工衛星のロケットと思われる光体の撮影に成功した。シユミット・カメラによる撮影はわが国はじめてで、確認された光体は太陽の三十分の一程度の明るさで、直径は約二センチメートル、重さは約十キログラム、高度は約五百キロメートルと推定された。この撮影は、東京天文台の観測に成功した。

【京都発】十六日午前四時三十九分京大花山天文台大型シユミット・カメラがとらえた人工衛星の軌跡(十六日午前四時三十九分三十三・五秒—三十九分五十二秒間をす)は京都府京田辺市に降った。これは天文台が十二日新設されたばかりの大型シユミット(口径四〇×三〇センチメートル)によるものである。



京大花山天文台大型シユミット・カメラがとらえた人工衛星の軌跡(十六日午前四時三十九分三十三・五秒—三十九分五十二秒間をす)は京都府京田辺市に降った。

けさも六カ所で確認

軌道、衛星の本格的な研究に役立つと東京天文台でもいっている。
この朝九時までに天文台へ八カ所から観測結果が報告されたが、衛星と確認されたものは武蔵野市、東京都下久留米町、東京都府中市、新橋野田町、金沢市、千葉県柏市の六カ所。衛星本体をつかんだのは、久留米の三カ所でロケットとキヤンツを捉えているほかはいずれもロケットだけだ。

市はじめ六カ所で衛星を確認したと東京天文台から同日午後四時つぎのようによ報告された。
この朝九時までに天文台へ八カ所から観測結果が報告されたが、衛星と確認されたものは武蔵野市、東京都下久留米町、東京都府中市、新橋野田町、金沢市、千葉県柏市の六カ所。衛星本体をつかんだのは、久留米の三カ所でロケットとキヤンツを捉えているほかはいずれもロケットだけだ。
また今朝東京天文台の流星観測用望遠鏡でロケット衛星の撮影に初めて成功したが、この写真の精密測定は、まだ三三とある。

世界最大の太陽反射鏡

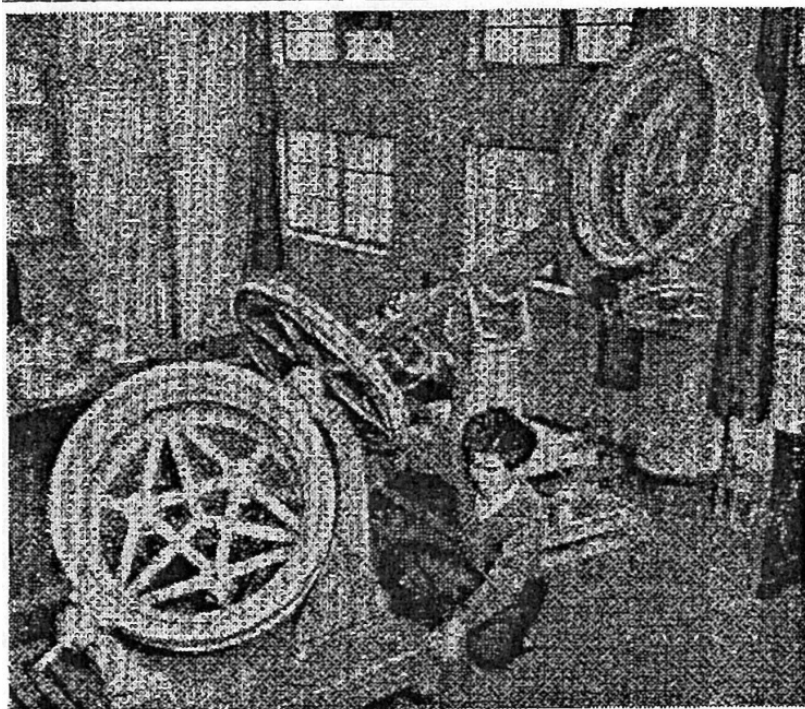
天文台 組立て進み完成へ

【京都市】京大花山天文台が昨年
末から組立てを進めていた世界最
大のシーロスタット(太陽反射鏡)
の取付けが進み一昨日中に完成す
る。口径七十センチの第一、第二面鏡
と五十センチの第三、第四面鏡から成
る第一面鏡は一つ、さらにオー
多面鏡二面鏡は一つ、さらにオー
多面鏡二面鏡から第四面鏡は一つ
ついでカメラに収める仕組み。
黒や白の斑紋など太陽面の
輝光現象を精密に観測するの
に用いられるが東京天文台の六十五
センチ・シーロスタットの三倍の光
を吸収するので肉眼では見えな
い八等星ぐらいの星も見える。
これまで東京天文台のシーロス
タットが最大で外函ではメリ
カのみシンガポールの四十二センチが
一番大きかった。

【京都市】京大花山天文台が昨年
末から組立てを進めていた世界最
大のシーロスタット(太陽反射鏡)
の取付けが進み一昨日中に完成す
る。口径七十センチの第一、第二面鏡
と五十センチの第三、第四面鏡から成
る第一面鏡は一つ、さらにオー
多面鏡二面鏡は一つ、さらにオー
多面鏡二面鏡から第四面鏡は一つ
ついでカメラに収める仕組み。
黒や白の斑紋など太陽面の
輝光現象を精密に観測するの
に用いられるが東京天文台の六十五
センチ・シーロスタットの三倍の光
を吸収するので肉眼では見えな



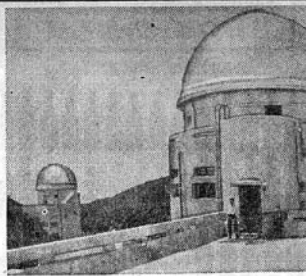
現在のシーロスタットの1面鏡と2面鏡
(2009年8月14日撮影)



組立てすすむ世界最大のシーロスタット(京都電送)

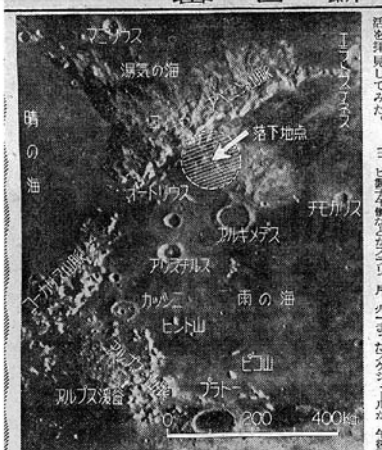
月をみつめて40年

花山天文台の宮本博士



カット写真は花山天文台

花山天文台の宮本博士は、月をみつめて40年、その間に多くの発見をした。...



「月の裏面の写真発表」... 電話のベルが鳴り、自動車が走り出す。...

研究に世界が注目

晴天を祈りつつ徹夜の観測 タフで優しい台長さん

貧弱な施設で大成果 わざわざ外国から見学に



「貧弱な施設で大成果」... わざわざ外国から見学に。...

コロナ温度の秘話

外国より五年前に発表

コロナ温度の秘話... 外国より五年前に発表。...

音楽が唯一の趣味

心のゆとり、研究の助けに

音楽が唯一の趣味... 心のゆとり、研究の助けに。...

家庭の団らんも研究の犠牲

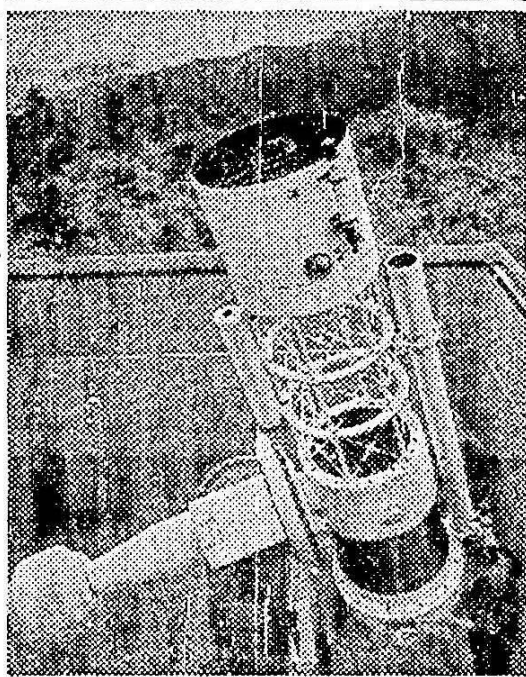
家庭の団らんも研究の犠牲... 家庭の団らんも研究の犠牲。...

努力を信じる

努力を信じる... 努力を信じる。...



第三代台長 宮本正太郎博士 (本館図書室に掲示)



世界一精密

花山天文台で見る

反射望遠鏡

【京都】京大花山天文台(台長・宮本正太郎京大教授)で月や火星など惑星専門の口径六十センチ反射望遠鏡が十一日、すえつけを終わっ

た。大きさは日本で三番目だが、精密さでは世界一といわれ、宮本教授の指導で中井篤篤研究員が設計、三年がかりで完成した。製作費約二千万円、すべてが国産品だ。筒の長さ三層五〇、焦点距離三・三層、倍率は最高千八百倍。全電動式で操作されるが、微動、手動装置など四種の装置が設けられている。写真は一定間隔に自動的にうつせる。筒がふすまが正確に星を導くように照準の角度二・五秒という歯車がついている。工業技術院大阪工業試験所でつくられた特殊ガラスを木辺成磨師がみがき、解像力は〇・二秒。人工衛星や月ロケットなども十分観測出来る。同台ではさきごく観測をはじめたが、来たる十二月二十五日地球に接近する火星観測に威力を発揮するものと期待されている。【写真は取りつけを終わった反射望遠鏡】



火星の発見で十分です」と喜びをかへて、いままで、月の地質学では世界で数少ない研究者の一人だ。ただけに、なまじりたうり、

三年前、月の海や噴火口の成因として、いままで、

世界一精密な反射望遠鏡を設備した
花山天文台長

みやもとしょうたろう
宮本 正太郎

第三の説を、
発露して世間を驚かせた。岩し
ようが冷えていくとき、岩石の
分離によって海と陸が分かれ、
ガスが噴出で火口ができたとい
うものだ。月の表面なら四十
の大きさまで見れるという六十
センチ反射望遠鏡が設備された時
に、「この理論の裏づけもこれ

と起きて観測してはならぬ」と
合意はその研究態度に敬服して
いる。人工衛星や月ロケットが
と近づくと、宇宙物理に進んだ。以来ずっと

いきんと関連されたこともあ
らう。物腰はかわらぬが、
学問上は妥協をしないきび
しさがある。



京都花山天文台長 宮本正太郎

からの信頼も多くなった。だが
、文壇教授の報酬はすべ
て足らない天文台の経営に
まわす、天文台見学者から小使

「附れがひんげんがつか
れ、要るとながへんがつか
天候まかせの研究だが「ライ
ワークはこれから。定年にな
ば、外郎へ行って大衆演説で
星の進化の研究もやってみ
たい」と研究意欲はさまざま
。家庭では一人のお嬢ちゃんを
「タッコちゃん」にするい
ろ。趣味はクラシック音楽「ス
トリーヘンの第九はいい論文が
出来たとき」と、かけるコー
下の理論で自分のよしが岡
子夫人には分かるという。広
原出身四十七歳。(京大教授)

京大助教授(宇宙物理学)

かわぐち いちろう
川口市郎氏

「ソビエトがついに人間衛星を打ち上げましたね……」話のきっかけをガガリン少佐のことから始めた。(しばし沈黙)「すばらしい業績だと思えます……。月世界旅行が夢でなくなれば、われわれにとつても大いに助かりますよ。これからの教科書も変わるでしょうね……」

名物像

ミを、時とき光らせながら話す。部屋まん中に古びたストロブが置かれ、山積みの研究資料や書残し原稿のそばに電気計算機が一つ、科学者の部屋を象徴するかのようによく光っている。京大花山天文台の一角「太陽館」の研究室だ。わが国天文学界の「頭脳」ともいべき天文台の研究室としては、あまりにもおそまつ。

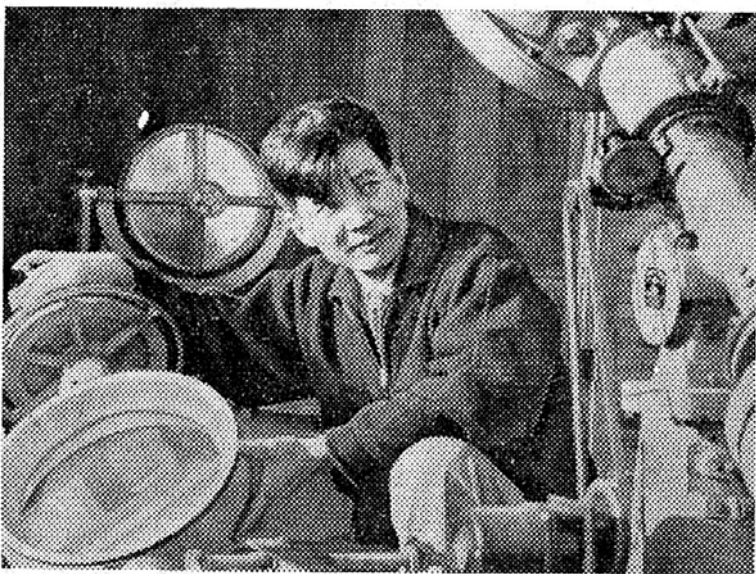
「終戦直後のことを考えれば、これでも立派になった方ですよ。宮本(正太郎)先生が台長になられた当時、この研究室は「ワトリ小屋」で、まともに

すわれる机は二つしかなかったくらいです。ここまで充実したのも、みんな宮本先生のおかげです」宮本教授が台長になる以前からの師弟関係でともに年々生まれの因縁もあってか、宮本先生の話になると、表情が急に生き生きしてくる。

「宇宙物理学専攻の動機は軍需工場で働くのがイヤだったため」で、「徳火の玉」の時代だから、学生は学問と青春を代償に戦争へ参加しなければならぬい。「戦争に関係のないところへ行きたい」との願いが、宇宙物理学へ、ひいては、宮本先生との邂逅(かいこう)となつた。昭和二十二年、京大卒業

山好きなら「研究の虫」

宮本教授の勤評も満点



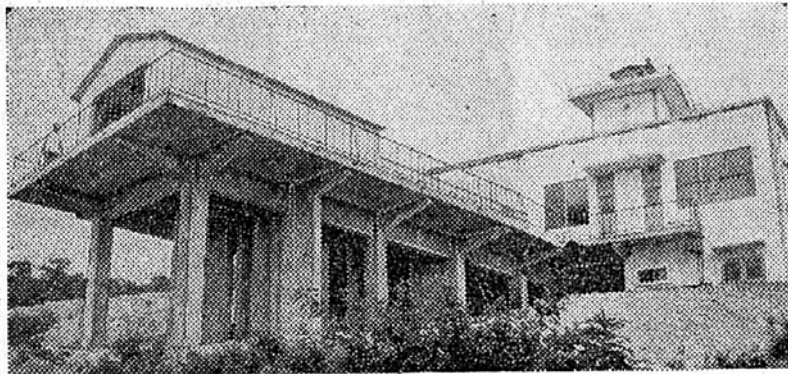
と同時に宇宙物理学教室の副手となり、二十六年同助手、三十四年助教授。痛くほど早い出世ではない。こうした点にも地道な性格があらわれているようだ。

ここで、宮本先生に登場しは理論より実証が必要だ、といっていた。川口君とは長うと、川口君はその後数年間とい付き合いですよ。当時、われわれは宇宙物理の理論ばかりやっていたが、ボクが、これから魂をかたむけました。天文台が

ここまで充実したのも川口君のおかげですよ」さしずめ、勤務評定は満点というところか。「静かな山中を散策するのが好き」で、故郷の大阪をあとにして、信州松本の高校へ入学したのも、山へのあこがれからだという。昭和三十年六月、日食観測のためセイロン島へ出かけたが、二ヵ月後に帰国するや「信州に紫外線スペクトルを作つてほしい」と宮本台長に申し出たエピソードもある。

「仕事に追われて、最近では好きな山にも登りません」とちよつとびりさびしそつだが、人里離れた天文台も山の中。向日町の家からスクーターで出勤しているが一月の半分は天文台で寝泊まりするという、山男ならぬ、研究の虫。一男一女の良きパパである助教授も十二月からまたニューギニアへ日食観測に出かけるという忙しい日程が待っている。完成まじな新観測所を感心しながめながら話す助教授の横顔には、将来のわが国天文学界を背負つて立つ若き科学者の決意がよみとれるようだ。||写真は分光器を手にする川口助教授

花山天文台に「太陽館」完成



惑星観測に新威力

京大花山天文台(台長、宮本正太郎教授)にわが国最大のシーロスタット(太陽望遠鏡)を完備した「太陽館」がこのほど完成、完工式に先立ち二十一日初公開された。太陽を中心に惑星のあらゆる諸現象を観測、研究するために新設されたもので、九月から本格的な観測を開始するが、既存の惑星望遠鏡や屈折望遠鏡、大型シュミットカメラに加えて、同天文台の観測陣に新たな威力を発揮するものと期待される。

同館の建設は同天文台十年来の夢で、昨年度省からやっと二千万円の建設費が認められ、一年がかりで工事を行なった。観測装置は、別に八百万円の科学研究費で製作したわが国最大といわれる口径七十センチのシーロスタットと口径三十センチの小型シーロスタットの二基で、どちらも四枚の鏡を組み合わせてつくった望遠鏡というより、むしろ反射装置といったもの。これは太陽の動きにつれて、鏡面が自動的に太陽を追う第一面鏡のほかに、た像をつぎつぎに二面、三面、四面の鏡にうつし、直径二十センチ(大型シーロスタットの場合)の太陽像を実験室内の分光器やカメラに送るもので、大型シーロスタットは第一面鏡から分光器までの距離が百センチという超大型級。さらに特徴は、観測研究のかなめとなる分光器で、わが国に二つしかないと

完成した「太陽館」

日本一の大望遠鏡 来月から観測始める

いわゆる回折格子のついた特殊高分散分光器が設備され、光の

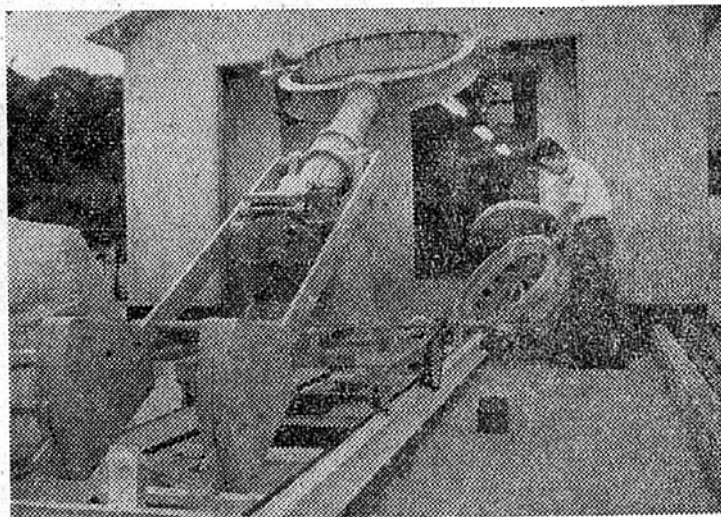
用で赤、紫外線両方の観測も可能とされる。

室、気温自動調節装置が完備されている。

太陽館は鉄筋三階建(延べ四万七千六百平方尺)で、大型シーロスタットの第一(移動)第

観測研究のおもなものは、太陽表面の爆発現象である黒点や白

紋、太陽周辺の大気の温度、密



わが国最大を誇る口径七十センチのシーロスタット

波長がいままでより三、四十倍も拡大されるほか、水晶体の使

二シーロスタット室と小型シーロスタット室をはじめ分光器、測定室、研究室、写真室、真暗室などで、分光観測室は指折りの太陽観測施設となる。観測に支障のないよう完全暗

度、気流などのほか月や木星、火星など明るい惑星の分光観測で、これで同天文台は世界でも

台天文山花

天ガイ吹つ飛ぶ

水びたし、観測ピンチ

台風通過の十六日、感星観測では日本一を誇る京大天天文台の太陽観測所、シニットカメラ観測室、感星望遠鏡などの天ガイが風

で吹き飛び、その他の観測器具も風雨にさらされるなど、昭和四十四年開設以来の大被害をうけた。同天文台では前夜から宮本正太

郎台長ら八人が泊まり込みで待機していたが、午後二時ごろ山頂を襲った瞬間風速六十級の突風は、アツという間に最近完成

したばかりの太陽観測所のシーロスタット観測室天ガイを押し倒し、さらに同観測所屋上の小観測室(地上九級)を完全に吹っ飛ばした。また別むねのシニットカメラ観測室も土台ごと

の木造宿舎。屋根ガワラはずり落ち、壁に穴があき、窓という窓は全部メチャメチャ。まるで爆撃直後のように目をおおっばかりの散乱ぶりだった。このほか構内、外の電話線や配線が至るところで寸断され、被害総額は推定一千万円以上。

五重塔(翻)一部傾く

十六日午後二時すぎ、京都市伏見区醍醐東大路町、真言宗醍醐三寶院の新旧宝・五重塔の上部相輪(青銅製)が北西に約三度傾き、一部が破損した。千余年前の創建(天曆五年)で京都ではいちばん古い建物。奈良法隆寺の五重塔に次ぐ重要なもの。高さ三十六級。

町、島津校で校舎一むね(六百六十平方級)が倒壊したのをはじめ校舎の半壊、屋根の破損が相ついでいる。おもな被害次の通り。(関係分)

【高校関係】洛東高校体育館屋根半壊▽木津高校旧校舎部分損壊▽鴨沂高校校舎ガラス大半破損

【小、中学校】経営郡宇治田原町宇治田原校校舎傾斜

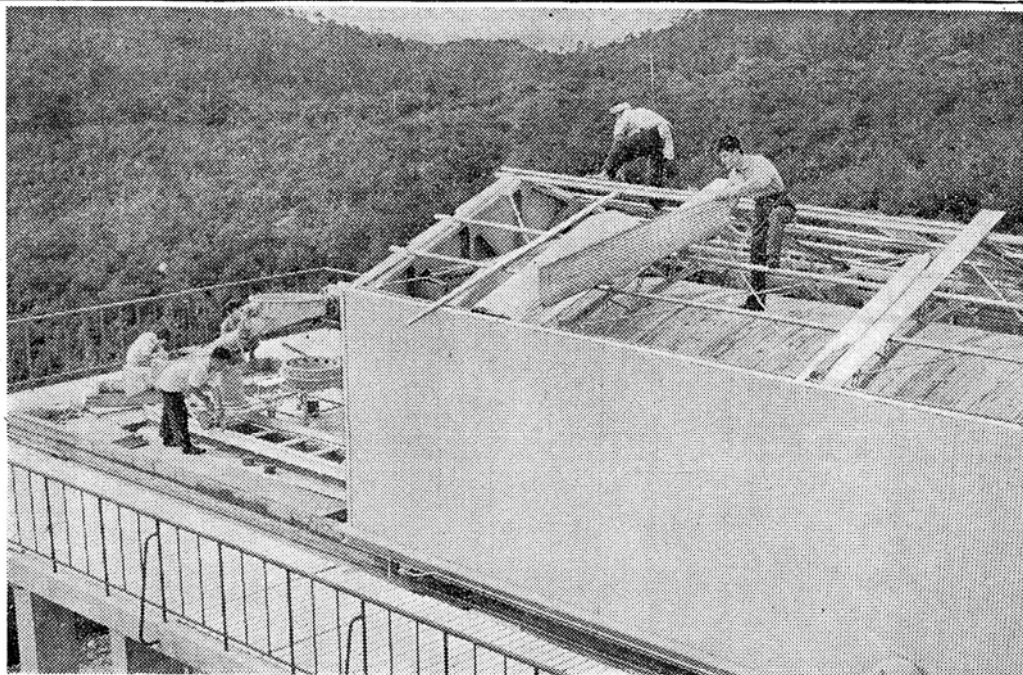
一方、京都市教委でも市立関係学校の被害は、午後七時現在藤ノ森、八条両中学で校舎の屋根が吹っ飛び、青空教室となった。

また同院勅使門(国宝)前の入一、清滝宮(同)の各一部も損傷した。
藤ノ森中など
屋根が飛ぶ

十六日午後七時現在、府教委には詳しい報告では、府下竹野郡網野

自衛隊、八幡町へ給水車

十六日の台風十八号で全壊百七十九戸の大きな被害を受け、全町が断水した府下、畿西郡八幡町に、十七日朝から、自衛隊福知山部隊が出動した。同町は十六日午後一時、科



吹っ飛んだ花山天文台の屋根の修理

(八千人)が水をたれた。このため自衛隊福知山部隊に出動を要請、十七日午前二時、同隊管理中隊長渡部方太郎一尉の指揮する給水部隊が大形けん引トラック五台、タンク車四台など到着、同七時から四隊にわかれ、家庭への給水をはじめた。

野民の簡易水道源池から水をくんだ二ト半のタンク車が猛吹

うと隊員に感謝を送っていた。一千人を動員、早朝から応急復旧作業に当たっていた。なお同隊の給水作業は停電が回復するまで、五日間ほど続けられる予定。

所員総出で屋根張り 花山天文台

小艇調査が吹っ飛ばされ、大観測室の四基の反射鏡を搬う移動式天文台、タンク車四台など到着、同七時から四隊にわかれ、家庭への給水をはじめた。野民の簡易水道源池から水をくんだ二ト半のタンク車が猛吹



おいしい水をどうぞ！自衛隊員が八幡町で給水

また、この日、天文台やそれらの二ト半を助けて、関係者が多く山を駆け、終日観測所や宿舎の修繕作業を応援、日ごろ人影まばらな天文台は台風のおかげで思わぬにきわみをみせた。なお今後の対策について、宮谷京大理学部事務長は「早急に国へ報告して、観測室などの研究施設を復旧したい。宿舎だけは、とりあえず仮宿舎をつくるが、将来は鉄筋本建築にしたい」と語った。

町の清掃に 全力あげる

京都市 日曜返上
京都市は十七日朝から日照を返上して半数の職員が出動、被害の実地調査と倒れた街路樹などの復旧にとりかかった。とくに被害のひどかった南區、伏見區では特別に日雇労働者をよつてゴミあつめシ原のくみとりなど町の清掃に全力をあげた。各区役所土木課でも区内をパトロールし、応急復旧をする箇所調査をはじめた。また死者を出した南區、右京區では小竹南、笠井右京區長が朝から被災者宅を訪れ、遺族をなぐさめた。こんどの台風で十月の定例市会に追加予算を出すかどうかについては十七日午後東京から帰る前山市長に英情を報告、方針を決める。

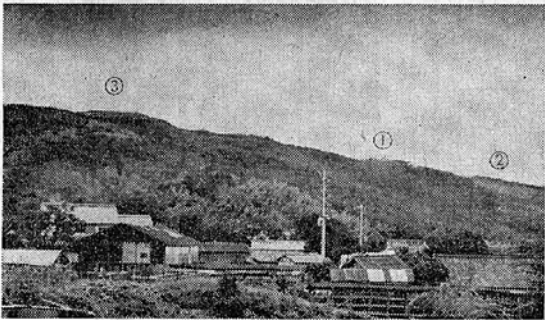
東山一帯 ゴルフ場ついに進出

花山天文台、移転のヒンチ

京大、条件つきで許可

学内、見解不統一のまま

一昨年から、京大花山天文台(台長 宮本正徳教授)は、京都市東山区山科花山一帯にもちあがったゴルフ場建設問題とは、京大側の猛反対で京都市が建設業者に工事中と命をあたえずと断料していたが、最近新たに別のゴルフ会が大規模なゴルフ場の建設工事を始め、さらに清水熱カマ元の築田幸軒問題の進展



①花山天文台のさき問題を起こしたゴルフ場
②新しくできるゴルフ場
③生まれ変わる東山

で、京大側はヒンチとなった。このため京大はついに、条件付きで高ゴルフ会社の建設を認め「覚え書き」をこのほど交換、近く市から商社に建設許可がおりることになった。三十二年間懸念の懸念に大きな養分をあげてきた天文台の生命は、これで絶たれることになり、もはや移転の途にない「関係者を乗せている。

二社が建設へ

昨年、京都市の事務禁止等を押し切った強引な事を始めた「東山カントリークラブ」(新理事長 渡辺義幸)は、市の筑地局長の取り扱いは、三月十五日までに約二十万三千五百平方メートルの埋立地を一旦返却したが、これを同会から「バントラ」を受け、京大東山観光部長(宮本正徳)代表取締役(渡辺義幸)があらためて市許可申請を提出した。

こうした動きに加え、建設の「京都東山観光社長」(北岡寿夫社長)が天文台から「五」は元花山神社遺跡の太田温(61)に十七年方財の本格的なゴルフ場を計画、先月からフルードサー工事を始めた。あわてた京大側は再三中止の交渉をしたが、最終、埋立地を別に外法的に埋立てる

大しては問題を承知して「条件つき」で再検討した結果、条件付き「承諾」することになった。条件の内情のつきが通り、埋立地に足跡のないよう、及ばざる設備を一切ないで、自動車用の道路、二層の防犯壁、防犯照明の設備、シバ取りの防犯工事、は事前協議する。ただし、これらの条件達成に対する返答については、京大側の取り合いがなから、天文台の一部では「関係者の進退」と強い批判も出ている。

「覚え書き」の交換が、埋立地を一つ、一部関係者「帰国」して行われたので、問題

「覚え書き」の交換が、埋立地を一つ、一部関係者「帰国」して行われたので、問題

で、市は「覚え書き」を建設許可を交する針だが、埋立地十倍といわれる天文台の埋立地は、ひたすら埋立計画の更なる中止外にならざるを得ない。

で、市は「覚え書き」を建設許可を交する針だが、埋立地十倍といわれる天文台の埋立地は、ひたすら埋立計画の更なる中止外にならざるを得ない。

埋立地の他の埋立を待たず、**实地調査して許可**
今川京都市都市計画局長の臨

埋立地の他の埋立を待たず、**实地調査して許可**
今川京都市都市計画局長の臨

とどころで、埋立の急務が納得できず、書類は返却した。しかし、京大は「覚え書き」の撤回はしない方針。少しでも有利条件で

とどころで、埋立の急務が納得できず、書類は返却した。しかし、京大は「覚え書き」の撤回はしない方針。少しでも有利条件で

月ロケット

京大に観測依頼

米、16日に打ち上げ



宮本京大花山天文台長

「月の国際観測」計画打ち合わせのため入浴中の仏国立ゼック・デュ・ミディ天文台副台長乙・ユパル博士、NASA（米航空宇宙局）の月面地理学者R・カルター博士ら四学者は五日、京大花山天文台で宮本正太郎台長と共同観測について話し合った。米航空宇宙局がきたる十六日、ケープカナベラルから月

面観測用の月ロケットを发射する「計画のあることを明らかにした。米国のロケット发射の計画は、これまで发射の三日前からに発表されているが、カ博士らは、同ロケットが月面に到着したさいの観測を宮本台長に依頼するため、事前にこの計画を話し合ったものとみられる。

それによさる、こんどの月ロケットは、ICBM用のブトラスを使って、十六日にケープカナベラルの基地から发射。二十日前後に月表面のケプラ火口の南側

にある、嵐の大洋、付近に到着させる予定で、同ロケットには月表面の放射能を計測するガイガー・カウンタとテレビカメラ、地震計などを積み込む。テレビカメラは、月面高度四千から二十四までロケットが飛んでいる間、カメラで月表面をつつし、ビデオテープで米基地の追跡ステーションに送る。ガイガー・カウンタと地震計は、ロケットが月に衝突、破壊されたあととも使用できるような特別の安全装置がほどこされ、引き続き計測データを地球に発信する仕組みになっているという。

このためカ博士らは、ロケットが月表面に衝突するさいの様相を詳細に観測する計画をたてているが、予定通りロケットが月に衝突すれば、日本からも観測できなくなるため、宮本台長に依頼したものの。

同台長もこの申し出を快諾「打ち上げ時間その他詳細な連絡をしてくれることになっているので、われわれの研究のためにもぜひ観測したい」と語っている。なお、米国の月ロケットはさききに一度发射されたが軌道をはずれ失敗している。



京都を訪れたコパール博士と握手する宮本台長（1964年ごろ）。コパール氏は1936年の北海道日食の際にも日本を訪れている（2000年8月21日の記事下の写真参照）（松本由紀子氏提供）

近く月の国際観測 日米仏で地図作る

天山花山宮本
語長台文

【京都発】宇宙飛行の足がかりとなる「月の地図」を作るため日、米、仏三か国の天文台が協力、月の国際観測を行なう計画が進められていたが、一日京大

天山天文台長宮本正太郎教授は「近目中に日本もスタートナ」と語った。

国際観測はフランスの天文学者ジネット・コパール博士の呼びかけ

でアメリカのストニーリッジ、フランスのビック・デュ・ミディ、京大の花山の三天文台がイギリスのマンチェスター大の設計による「高速度感型カメラ」を使って月

表面をくわしく観測するもので、いままでの各国での単独観測とはちがって太陽が月面に落ちずカゲが移動する様子を遠く離れた三天文台でリレー式に追跡し「月のデコボコを正確に写真観測し「月の立体地図」をつくるのがねらい。

京大天山、ビック・デュ・ミディ天文台はこのカメラを使って昨年秋からすでに予備観測をしていたが、このほどアメリカ航空宇宙局から天山天文台にはいった通信によるとアメリカのストニーリッジ天文台（サンフランシスコ）も先月末同型望遠鏡とカメラの揃えつげを終わり、観測ができるようになった。このため待望の共同観測が近目中に始められることになり、フィリムは三天文台からアメリカ航空宇宙局の月地望センターに送り五年後に同地図の完成をめぐりしている。

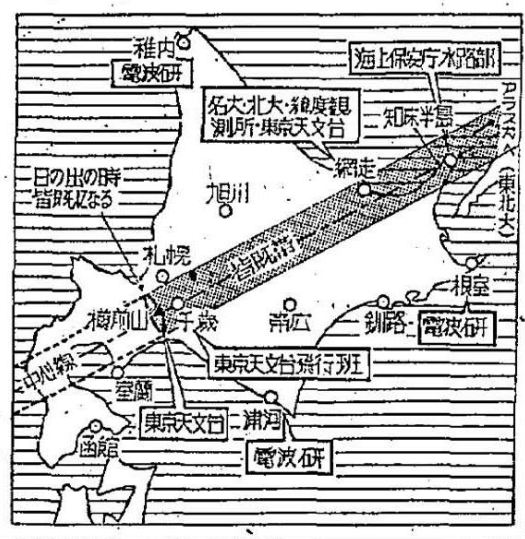
なおこの観測の打ち合わせが九月にパリで行なわれ、日本からは宮本台長が出席する。

1963年3月2日 読売新聞

機上班など七観測隊

7月21日、北海道、アラスカへ

皆既日食



きたる七月二十一日午前四時十四分ごろ北海道でおこる皆既日食の観測計画が東京天文台はじめ七機関でまとまり、今世紀中に国内で見られる最後の皆既日食なので念入りな準備をはじめた。

観測隊を送るのは東京天文台、

名大工学部、北大理学部、東北大理学部、海上保安庁水路部、文部省緯度観測所、郵政省電波研究所の七機関、観測員約四十人。主力は北海道の樽前山、網走、知床半島先端など皆既帯の中心線上に布陣するが、飛行機

で長時間「黒い太陽」を追う計画もあり、別動隊はアラスカに遠征する。ただ大花山天文台だけは文部省に予算をけずられたため観測計画を断念、くやしがつている。

こんどの北海道日食は皆既帯が支笏湖付近にはじまり、夜明けとともに黒い太陽がのぼるめずらしいもの。昭和六十二年（一九八七年）沖繩でおこる金環食をのぞくと、昭和八十四年（二〇〇九年）の奄美大島の皆既日食まで観測のチャンスはない。

そこで東京天文台ではダグラスDC-3型機をチャーターして千歳から中心線上を高度五千メートルで太陽に向かっていると、天気や継続時間に関係なくコロナと黄道光の観測をする。また東北大

- 加藤愛雄教授は単身アラスカにとび、同州スードウでアラスカ大学の観測隊と地磁気脈動と地電流の共同観測をする。その他のおもな観測つぎのとおり。
- ▽東京天文台 古畑正秋教授ら三人が樽前山で黄道光を観測、斎藤国治助教授ら三人が網走市地方気象台付近で四連カメラによるコロナの写真観測。ほかに飛行機観測班三人。
- ▽名大工学部、北大理学部 大川野実氏ら七人が網走市付近で空中電気と放射能の異常変化を観測。
- ▽海上保安庁水路部 大脇直明技官ら十人が知床半島先端で接触時刻の精密測定。
- ▽緯度観測所 古川麒一郎技官ら三人が網走市地方気象台付近で接触時刻の観測と月縁のプロファイルの写真撮影。
- ▽電波研究所 大瀬正英技官ら観測班数隊が根室、浦河、稚内、秋田などに布陣、電離層の異常変化を観測。

国際 月面学会長に宮本氏



【大阪発】月の地質に関するシンポジウムに出席のため渡米中の京大花山天文台長宮本正太郎教授（写真）から二十三日、販売新聞に寄せられた通信によると、同教授は二十日ニューヨークでの会議最終日に開かれた国際月面学会の総会で会長に選ばれ、同夜就任記念のパーティーであいさつした。

国際月面学会は一九五七年発足初代会長にイギリスのウイルキンズ博士、ついでイギリスの天文学者アルバート・ペンソン、スウェーデンの天文学者アルバート・ペンソン博士が就任、宮本教授は三代目会長となるわけで、学会事務局が京大に移されるかどうかは不明。（二面「時の人」参照）

1964年5月24日 読売新聞

花山天文台が脱出

都市化に降参、北アへ

【京都】伝説を誇った京大の花山天文台が、走るドライブウェイとアパートなどの都市化に伴って降参、新天地を求めて空気の澄んだ北アルプスへ観測の主眼部を移すことになり、二十日現職で宮本正太郎花山天文台所長ら関係者が集って離脱式をおこなった。

同天文台は京都市内の名勝地東山の一角に昭和四年設置された。以来、天体観測の拠点として活躍していたが、数年前、約百メートルに及ぶ東山下ドライブウェイが開通した。夜は車のライトで眩惑し、昼は天体の光が乱れ、また約二、三センチはアパート、文化

住宅などがつきつき新築され、とくに微妙な天体観測はいくらか精密な機械を購入しても環境をかえねばだめ、との引越になった。

同天文台は京都市内の名勝地東山の一角に昭和四年設置された。以来、天体観測の拠点として活躍していたが、数年前、約百メートルに及ぶ東山下ドライブウェイが開通した。夜は車のライトで眩惑し、昼は天体の光が乱れ、また約二、三センチはアパート、文化

同天文台は京都市内の名勝地東山の一角に昭和四年設置された。以来、天体観測の拠点として活躍していたが、数年前、約百メートルに及ぶ東山下ドライブウェイが開通した。夜は車のライトで眩惑し、昼は天体の光が乱れ、また約二、三センチはアパート、文化

同天文台は京都市内の名勝地東山の一角に昭和四年設置された。以来、天体観測の拠点として活躍していたが、数年前、約百メートルに及ぶ東山下ドライブウェイが開通した。夜は車のライトで眩惑し、昼は天体の光が乱れ、また約二、三センチはアパート、文化

火星に生物の可能性

国際会議で 宮本博士語る

【インド(オレゴン州)二十四日ワシントン】国際月面地理学会に出席中の日本代表宮本正太郎博士（京大教授、京都花山天文台台長）は「マリナー4号の火星近接写真からみて、火星は、死の世界ではなく、なんらかの生物の存在が可能だと信ずる」と次のように述べた。

とほつきりしたたけら。

大部分がまだ公表されていないマリナー火星写真のすべを米政府から提供された結果、少なくとも

【注】マリナー4号による火星クローズアップ写真は、米ジェット推進研究所の科学者たちによって解析されているが、同研究所主任解

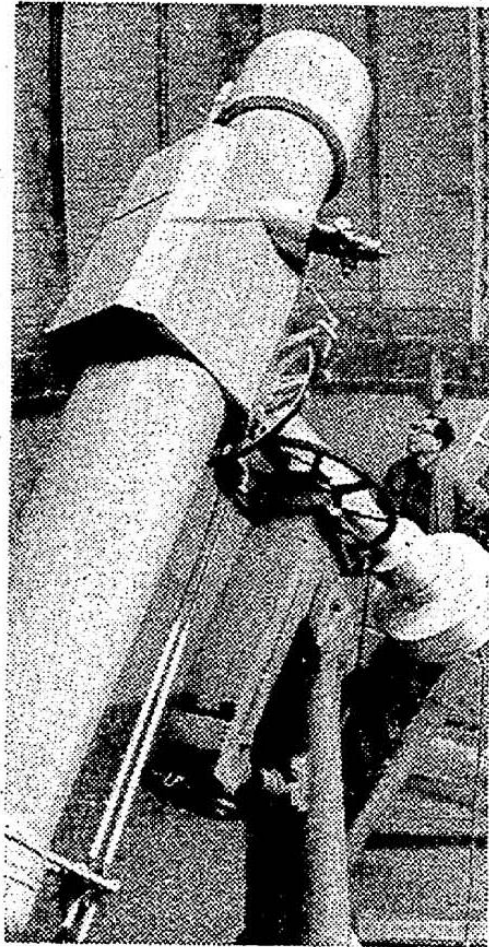
新着ロケット・リットン博士は「火星表面でかつて海や湖川などがあつたという証拠はなに一つない」と述べ、運河説を否定。火星には大気が非常に薄く、地形が月面に似ていて、水分も認められないところから、生物が存在する可能性も低いと観測している。

一方、宮本博士は、以前から、火星に運河のような地形があるという説をとるが、水分が多く、雲が多いと主張していた。

1965年8月26日 朝日新聞

1967年6月21日 朝日新聞

日本一の屈折望遠鏡



月や火星観測に威力

京大花山天文台に完成

【大阪】京大花山天文台(台)調。これまでと違い連続写真撮影機、宮本正太郎教授に、性能目が可能で、火星大気の大循環や、本一の屈折望遠鏡が完成、六月雲の動きの实体をつきとめる道もから観測を始める。これまでが、開けてきた。同天文台はさる三十国の望遠鏡では火星の写真撮影が一年から十八年計画で「火星の」できなかったが、新望遠鏡は焦点の乱れを除いた第一級品で、宮本教授は「ヨハネスブルグ天文台(南アフリカ)が写した世界一の火星写真よりすばらしいものをとりたい」とはりきっている。

この望遠鏡は、これまで月の観測などに威力を発揮してきた屈折望遠鏡のレンズ(口径三十センチ)を四十五センチの社ツァイス社製(千九百万円)に交換してつくった。口径が大きくなったにつれて焦点距離がのび、鏡筒を長くしなければならぬが、ドーム改築の予算がないので鏡筒に二枚のミラーをいれて改造している。

おまに使うのは火星と月の観測。【写真は完成した屈折望遠鏡】

マリナー4号が「火星大気のはじめは地球の百分の一、主成分は炭酸ガス」との情報をもたらして以来、火星の北極と南極に白く輝く「極冠」の正体をめぐって、ドゥイアイス説と霜説が対立しており、新望遠鏡がどんな答えをだすか興味深い。屈折望遠鏡では東京天文台の口径六十五センチが最も大きなが、ミラーで性能が落ち、現在はほとんど使用されていない。

大学の群像

東洋一めざす天文台

岐阜県吉城郡上宝村—人口約五千五百。檜穂高、焼岳など北アルプスに近い山村が、いま「学術村」「科学村」として生まれ変わろうとしている。四十二年十月に完成した「地震変動観測所」をはじめ、京大関係の研究施設の開設があいついでいるからである。なかでも、大雨見山頂(標高一、四五〇米)の「飛騨天文台」(仮称)は「東洋一々々々々」を、目下、着々と工事がすすめられている。

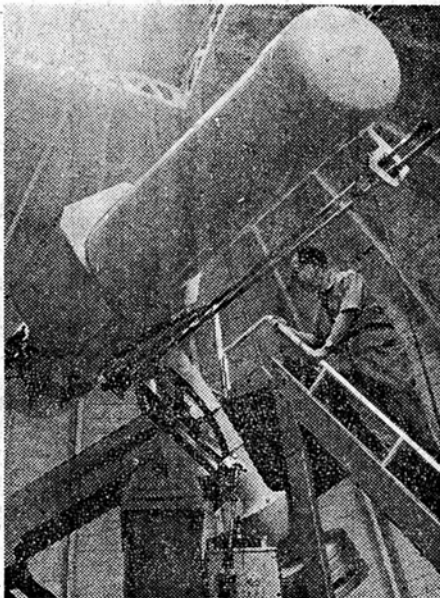
宇宙をさぐる

計画を進めてきた京大花山天文台(京都市東山区)の宮本正太郎教授によつて—

「来年の季節までに建て物を作り、なるべく早く観測を始めたい。でき上がれば、天文台としては日本一の高さになるから、気流の上きは抜群。なにしろ四十年も使つた花山天文台が、都会の明るさや空気のよさで満足な観測ができなくなり山奥へ疎開するんだから、研究者はみんな引越しを待ちかねているんです。公費だけでなく、天文学にはいろいろな悩みがあるんですが、とにかく天文台だけはいいのがないか……」

月や火星の表面研究

「飛騨天文台」はいわゆる惑星天文台で



望遠鏡「45口径折望鏡」を照らす学生正太郎教授、火星の天気予報もできませぬ、という京大・花山天文台

ここで宮本教授、腰部補助教授らは火星や金星の大気(気象学)を調べ、月や火星の表面(地質学)を研究しようとしている。

たとえば、火星は地球と類似点が多く、雨は降らないが雪は降り、四季の変化もあるのに、大気の循環系統が地球とは全く違うのはなぜだろうか。「むしろ地球の成層圏が火星の大気に似ている」と世界で初めて指摘した宮本教授は、さる二十一年から火星の雲の流れの観測に手をまわっている。

<35>

火星の一年は地球の約二年に相当し、火星はおよそ二年五ヶ月地球から遠ざかるとか、一年間接近し、また離れてゆくから、四季すべてのデータをとるためには、どうしても合計七一年間にわたって観測しなければならぬ。毎夜毎晩、不安定な足場の上で望遠鏡をのぞく、徹夜に等しい作業である。

「それでも私のほかにはほとんどやっています」

頭脳流失を嘆く教授

くなくなった。まず第一に、研究者の数が少なすぎる。日本天文学会を開いても、せいぜい百人ほどの人が集まらない。せつかくおもしろいテーマがあっても、研究者不足から手つかずの部門が多く、おかげで「みんながそれぞれの分野で、世界的権威」になつてしまつたという。

その原因の二つは就職口が足りないこと。京大で天文を専攻しても、吉崎渉(大分大)、小山伸(香川大)、田中利一郎(新潟大)、鈴木雅正(京都教育大)各氏らのように、やつと得たポストが教育学部では、決して十分な研究活動はできない。教育学部に対して良心的であればあるほど、逆に研究から離れざるを得ない。「天文学志望者が少ないのも頭脳流出も、現状ではやむをえませんね」——と宮本教授は嘆く。

× × ×

だが、天文学の進歩が他の分野にくらべ遅れているというわけでは決していない。とくに「望遠鏡を使わない天文学」の近年の発展はめざましい。星の大気中で放射エネルギーがどう流れるか——といった恒星大気論の上野孝夫京大教授、銀河系の構造を調べる恒星統計学の清水種京大教授らがその推進者。また、核反応の立ち場から星の進化を論じた林忠四郎京大教授の研究は、まったく新しい天文学の好例と

実証された火の玉論

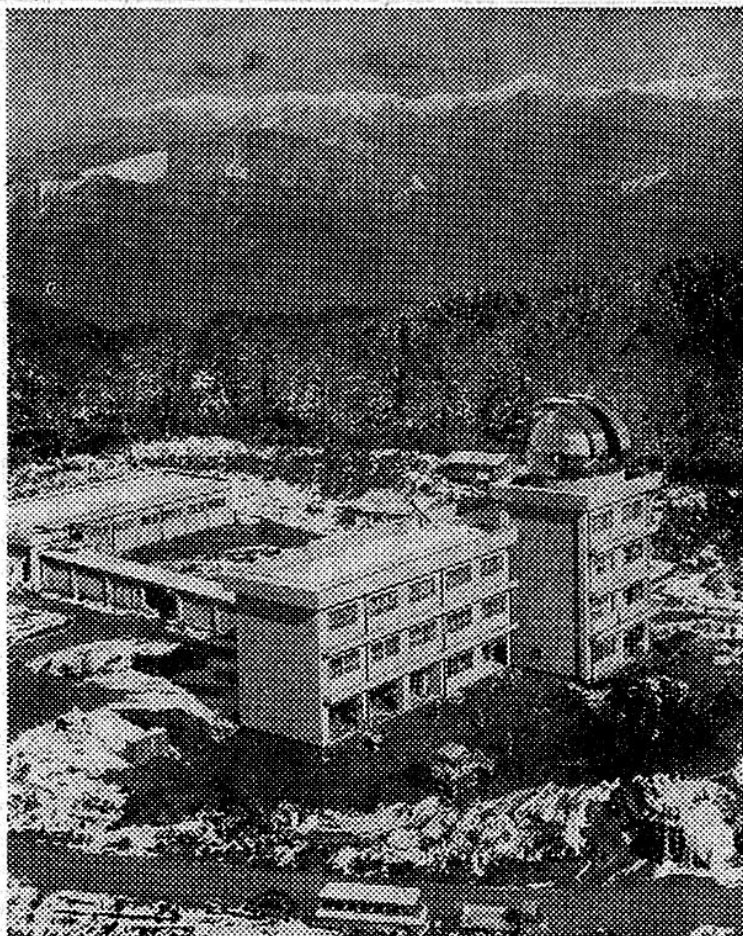
昭和三十二年、アメリカのカモフが「火の玉宇宙論」を唱える。林さんはその翌年「ヘリウムは宇宙がまだ火の玉であつたころに上がった」と推論。したがって、その後十数年たつて、電波望遠鏡による宇宙の温度観測からそれが実証され、林さんの研究が、一躍、脚光を浴びた。さらに、輝く星は「原始星」からどんな段階を経て現在にいたつたのかという疑問も、「く最近発見された赤外線を手がかりに着々と解明されつつある。赤外線を出しているこの星は「原始星」の一種であり、かつては今より希薄で透明な星だったが、ここには収縮して温度が高まり、目に見える光を出し始めるのではないかと、星の進化論から林さんは推測している。

新しい天文学、いわば「宇宙物理学」がわれわれ太陽系の過去を明らかにする日もある。そう遠くはなさそうだ。

入宅

上宝村 平湯温泉、新樹高温泉までもつ観光地として、また乗鞍、槍、穂高への登山口として、年間観光客は十万人を数える。北アルプスの裏側一帯を占め、村の大きさは岐阜県では一番、全国でも有数だという。産業は観光のほか林業、農業などが主で、米は年間一

万俵を圃に売り渡している。京大関係の研究施設の建設は、長野県側の乗鞍にある東大コロンナ観測所、宇宙線観測所の向こうを張ったところで、村でも大いに歓迎している。とくに大雨見山頂の天文台は規模も大きく、完成すれば村の名物の一つになりそう。



大雨見山頂に誕生した京大飛騨天文台(よみうり111号機)

北アルプスに大天文台

月惑星の観測に威力

京大が開設

北アルプスに、わが国最大の月惑星観測天文台が誕生、一千七日開所式が行なわれる。

月や火星の観測で知られている京都大学理学部付属花山天文台(京都市東山区山科、台長・宮本正太郎教授)から分家した京大飛騨天文台で、穂高連峰や乗鞍岳の西側にあたる岐阜県吉城郡上宝村の大雨見(おおあまみ)山(海拔一、三三六呎)山頂に三か年計画で建設された。四階建て観測研究とうの屋上に輝くドーム内には、すでに花山からうつした六十センチ射望遠鏡がセットされている。

り、長野、岐阜両県下に候補地をさがしたすえ、高山市から北東約四十キロ、車もはいれない山道もたどるこの地がえらばれ、四十一年度着工、このほど第一期の建設が完了したので、観測を開始することになったもの。

計画によると、来年いっばいは六十センチ反射でがまんするが、引きつづいて新しい六十センチ屈折望遠鏡がはいり、さらに米ウィルソン天文台級の一・三呎ないし二呎の射望遠鏡をそなえる。そのほか太陽コロナを観測する太陽望遠鏡もおかれる予定。その折にはフランスのバリ国立、アメリカのローウェル、ヤーキースとならぶ世界の四大惑星研究天文台となる。

集合写真



1951年3月13日、宇宙物理学教室屋上にて。最前列右から5人目が宮本正太郎博士（松本由紀子氏提供）

集合写真



1953年3月、宇宙物理学教室前にて。最前列左から4人目が宮本正太郎博士（松本由紀子氏提供）



花山天文台本館玄関前にて（1967年ごろ撮影。松本由紀子氏提供）

ゲスト写真



ペルーから来日した石塚睦博士御一行。右からイシツカ・ホセ博士、石塚夫人、石塚睦博士の各氏。(2004年3月撮影)



京都賞受賞のため来日したパーカー博士（後列右から3人目）を囲んで。後列右から二人目は田島俊樹博士（当時、原子力研究機構関西光科学研究所所長）(2004年3月撮影)

ゲスト写真



作家小松左京氏（前列中央）を迎えて（本館図書室にて 2007 年 12 月撮影）



小松左京氏（最前列右）と小松左京研究会の方々を迎えて。
2 列目左端は澤田芳郎京大教授（国際融合創造センター）（本館玄関前にて 2007 年 12 月撮影）